

ひと目で分かる4コマまんが

まかしのてんかっ！  
ハイ 阪子です



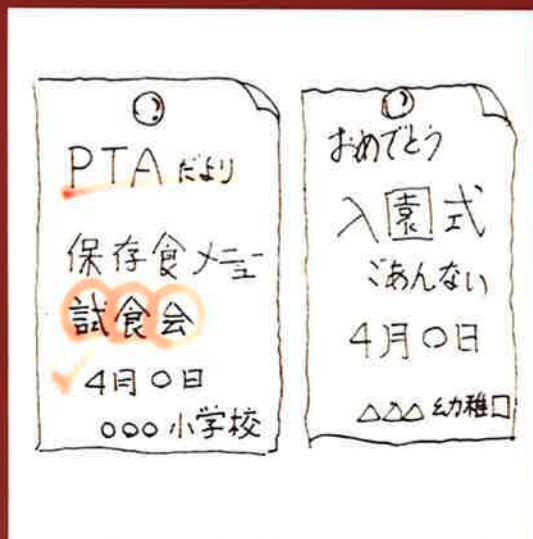
おっと、年度末はアレやんかっ！



引換券ちょーだいつ



食べたいなー  
アホッ、いま食べてどないすんねん  
今年も食んで済んだっちゅーこっちゃん



よっしゃ、食べといでー！！

■ 提案の名称

防災税の導入とその還元制度に関する提案

■ 提案の概要

地方行政庁と地方銀行との協働による一般家庭への防災意識に対する啓蒙事業を提案します。

納めるものは、日々の生活における防災税  
還ってくるものは、無災害への感謝と防災備品引換券

■ 提案の目的

- 目的1： 家庭用防災用品の整備・更新を、生活習慣として浸透させる  
毎年年度末に、1年間の家族の無事を祝い無災害を感謝するとともに来年度への防災への備えを意識することを、地震国に暮らす日本人の生活習慣として浸透させることを目指します。
- 目的2： 地方行政庁における防災事業を行なうための税収を確保する。  
消費税の中に微小額を防災税として組み込み、消費の多い高額所得者が低額所得者を賄うといった性格を持つ間接税とします。この税収を用い、災害に強い街づくりに活用するとともに、目的1に記した毎年各家庭に配布する防災備品の資金とします。

■ 提案の背景

『銀行というサービス機能に、主婦への防災の意識付けを託す』

今日では、もはや金融サービスは電子取引が主流となり、無人のATMが対応をする時代ではあります。しかし、まだ銀行には庶民に対するサービスとして、人と人との対話によるサービスを行なおうとする気概と思いやりが残っている気がします。かつては、地方銀行がそれぞれに特色を持ち、いずれも地域に根ざした血の通ったサービスが受けられる心地よい場所であったと思います。合併統合をもって合理化を図ったために失われようとするその役割を、今再び新たな「職能」として防災という観点から再構築しようという試みです。  
災害は、いつやってくるかわかりません。平日の日中、家庭を守っているのは主婦であり、家庭における防災準備は、主婦の防災意識によるところが大きいです。一方、日々の生活に追われる中で主婦が年間の収支決算を意識するのは、家族の入学や卒業、あるいは確定申告や各種税金の通知が来る年度末です。そこで、毎年年度末に行なう銀行からの引換券受領という手続きには、あたかも1年間積み立てた「防災預金」を引き出すかのような感覚になぞらえて、主婦の防災意識の啓蒙を図る狙いがあります。この一連の手続が、やがては生活習慣、あるいは年中行事として定着していくことを目指して、銀行の失いかけた潜在能力を活用すべきではないかと考えました。

■ 具体的提案内容

『防災備品の更新を通じ、防災意識の向上と地域の交流を目指す』

『防災税の導入』

予算の確保としては、消費税の中に、数パーセントを防災税として組み込みます。

『防災計画&防災備品』

地方行政庁は、民間の知恵や工夫を取り入れながら、その土地の風土気候に見合った防災計画を立案、並びに優れた防災備品を紹介、それらの周知徹底に努めて頂きます。

『引換券の発行』

実質的には、銀行に、行政機関と連携して引換券発行という役割を担って頂きます。年度末に行政から銀行経由で防災備品引換券を発行、その券で非常食や燃料といった防災リュックに入れておくべき備品を、任意の小売店にて引き換え出来るシステムを制定します。各銀行に口座を持つ市民は、年度末に銀行にて、引換券を受け取ることが出来ます。

『防災備品の引換』

各家庭では、家族団らんの中で防災について話し合い、引換券をもって任意の小売店にて防災備品を入手、それらの整備更新を図ります。

■ 期待される波及効果

引換えに際し、各家庭より余剰として出される前年度に用意された保存食については、地域毎に教育機関などで調理方法のアイデアの紹介等と共に、それらを食する機会をイベントとして設けることにより、更なる啓蒙活動に繋がります。  
奇しくも、皆が記憶にとどめておくべき3月11日は年度末にあたります。日本全国、毎年この日に相前後して防災計画を見直し、防災装備を更新し、災害に向き合いつつ無事を喜び合うことで、いざというときの備えと心構えが創られていくと考えます。